

日本語の文の副詞の
「きっと」、「必ず」、「絶対（に）」の類義語の研究
(統語論と意味論の視点)



ラウレンシア インネケ チャナタ

1 2 4 2 0 0 3

マラナタ・キリスト教大学

日本語・日本文学科

バンドン

2 0 1 6

1. 序論

人はほかの人たちと意思疎通するために、言語を使う。しかし、言語の中には、たくさん似ている言葉がある。日本語では、その似ている意味をもっている言葉を類義語と言う。類義語というのは、意味が同じか、またはよく似ている単語のことである（徳川、1972：3）。

類義語はどの品詞でもあるが、この研究では副詞という品詞における類義語を研究する。副詞には三つ種類がある。それは「状態の副詞」、「程度の副詞」、「陳述の副詞」である（小池、1992：186）。動きのありさまを表す副詞を「状況の副詞・様態の副詞」という（増岡、1999：41）。主として、状態を表す語を修飾して、その状態の程度を限定するものを「程度の副詞」という（小池、1992：186）。そして、普通、文頭に現れて、文末の陳述の内容を予告する動きをするものを「陳述の副詞」という（小池、1992：187）。

陳述の副詞の中で、「きっと」、「必ず」、「絶対（に）」がある。これらの副詞はよく似ている意味を持っているが、時々文の中で置き換えられない。外国語として日本語を勉強している人たちはよく間違え、そこで本研究「きっと」、「必ず」、と「絶対（に）」の日本語の文での使い方と日本語の文での意味を調べた。

2. 本論

(1) . ア. 「センスがいいし、きっと、美しい女性なんだろうね？」

(進藤、2003：159)

イ. *「センスがいいし、必ず、美しい女性なんでしょう
ね？」

ウ. 「センスがいいし、絶対に、美しい女性なんでしょう
ね？」

(1) 番の文では、「必ず」は「きっと」に置き換えられない。この文は主観的な意味を持っているからである。「必ず」は肯定の場合には使えるが、主観的な意味を持っている文では使えない。客観的な文だけに使える。しかし、「絶対(に)」は「きっと」を置き換えられる。「絶対(に)」は肯定、不定の場合にも使える。主観的な意味を持っている文で使うが、「きっと」よりもっと強い意味を与える。

(2). ア. 私は酒を飲むと必ず頭が痛くなります。(松本、1996, 111)

イ. *私は酒を飲むときっと頭が痛くなります。

ウ. *私は酒を飲むと絶対に頭が痛くなります。

(2) 番の文では、統語論によれば、「きっと」と「絶対(に)」は「必ず」に置き換えられるが、意味論によると、置き換えられない。習慣的な意味があるからである。その習慣的な意味は「酒を飲むと頭が痛くなります」の節で表されている。

(3). ア. 星が出ているから、あすはきっと晴れるでしょう。

(小山、1993: 86)

イ. *星が出ているから、あすは必ず晴れるでしょう。

ウ. *星が出ているから、あすは絶対に晴れるでしょう。

(3) 番の文では、「必ず」と「絶対(に)」は「きっと」を置き換えられない。文末に、「～でしょう」があるからである。「～だろう」や「～にちがいない」や「～はずだ」などが文末にあれば、「きっと」を使う。

(4) . ア. 「必ず、戻る。がんばれ！」(宮崎、1997: 45)

イ. 「きっと、戻る。がんばれ！」

ウ. 「絶対に、戻る。がんばれ！」

(4) 番の文では、「必ず」、「きっと」、と「絶対に」に置き換えられる。「必ず」は肯定の場合、客観的な意味を持っている文で使われる。「きっと」と「絶対に」は肯定と不定の場合でも、主観的な意味を持っている文で使われる。しかし、「絶対に」は「きっと」よりもっと強い自信がある様子を与える。

3. 結論

本論に対して、この研究の結論は下記の通りである。

(1) 「きっと」は肯定・不定のどちらの場合にも使える。主観的な意味を持っている文だけで使われ、「自分の自信」を表す副詞である。「きっと」は「～にちがいない」や「～はずだ」などの言葉を文末に伴う。

(2) 「必ず」は肯定の場合だけに使えて、客観的な意味を持っている。自然の法則・物の道理・常識・習慣や本能を表す副詞である。「必ず」は「きっと」よりもっと強い気持ちを与え

る。

- (3) 「絶対（に）」は肯定・不定のどちらの場合にも使える。主観的な意味を持っている文だけで使われ、「100%」の意味を持っている。「絶対（に）」は「きっと」よりももっと強い気持ちを与える。



DAFTAR ISI

HALAMAN JUDUL.....	i
HALAMAN PENGESAHAN.....	ii
HALAMAN PERNYATAAN ORISINIALITAS.....	iii
PERNYATAAN PUBLIKASI SKRIPSI.....	iv
KATA PENGANTAR.....	v
SINOPSIS.....	viii
DAFTAR ISI.....	xii
BAB I PENDAHULUAN.....	1
1.1 Latar Belakang Masalah.....	1
1.2 Rumusan Masalah.....	6
1.3 Tujuan Penelitian.....	7
1.4 Metode dan Teknik Penelitian.....	7
1.5 Organisasi Penulisan.....	8
BAB II LANDASAN TEORI.....	9
2.1 Sintaksis.....	9
2.2 Semantik.....	10
2.3 Kelas Kata.....	11
2.3.1 <i>Meishi</i> 名詞.....	12
2.3.2 <i>Doushi</i> 動詞.....	12
2.3.3 <i>Keiyoushi</i> 形容詞.....	13
2.3.4 <i>Rentaishi</i> 連体詞.....	14
2.3.5 <i>Kandoushi</i> 感動詞.....	15
2.3.6 <i>Jodoushi</i> 助動詞.....	16

2.3.7 <i>Joshi</i> 助詞.....	16
2.3.8 <i>Fukushi</i> 副詞.....	17
2.4 Jenis-jenis <i>Fukushi</i>	18
2.4.1 <i>Joutai no Fukushi</i> 状態の副詞.....	18
2.4.2 <i>Teido no Fukushi</i> 程度の副詞.....	19
2.4.3 <i>Chinjutsu no Fukushi</i> 陳述の副詞.....	20
2.4.3.1 <i>Kitto</i> きっと.....	21
2.4.3.2 <i>Kanarazu</i> 必ず.....	22
2.4.3.3 <i>Zettai(ni)</i> 絶対 (に)	23
BAB III ANALISIS	25
BAB IV SIMPULAN	60
LAMPIRAN DATA	xiv
DAFTAR PUSTAKA	xxi
RIWAYAT HIDUP PENULIS	xxiii

LAMPIRAN DATA

1. きっと

1.1 彼は一生懸命頑張ったからきっと大学に合格しますよ。(Oyama, 1993:86)

1.2 彼が来ないと知ったら、彼女きっとがっかりするだろうな。(Oyama, 1993:86)

1.3 星が出ているから、あすはきっと晴れるでしょう。(Oyama, 1993:86)

1.4 「来月は必ずお金を返しますから」

「きっとだよ」(Oyama, 1993:86)

1.5 あの会社は将来きっと発展するだろう。(Akimoto, 1987:164)

1.6 彼女はきっと疲れたのだろう。(Shogakukan, 1994:299)

1.7 「お父さん、お母さん、きっとたすけてあげるから、あんまりふとっちゃだめだよ。食べられちゃうからね。」(Miyazaki, 2001:57)

1.8 「ハク、きつともどってくるから、死んじゃだめだよ。」
(Miyazaki, 2001:57)

1.9 「またどこかで会える？」

「うん、きっと。」(Miyazaki, 2001:161)

1.10 「きっと淋しがってるわ」(Kaori, 1991:26)

1.11 八十歳の節分にも笑子はきっと、まじめに八十粒の豆を食べさせるに
違いない。(Kaori, 1991:37)

1.12 「笑子さのからだは、きっと素直なんですね」(Kaori, 1991:62)

- 1.13 これはプレーンだからきっと気に入るよ。(Kaori, 1991:76)
- 1.14 つめたい水の中で、金魚はきっと優雅に泳ぐだろう。(Kaori, 1991:136)
- 1.15 きっと今日は遅いわ。(Kaori, 1991:173)
- 1.16 「紺くんだって、きっとそのつもりで旅行に行ってくれたんだわ。」
(Kaori, 1991:188)
- 1.17 きっと、忘れ雪は寂しがり屋なのよ。(Shindou, 2003:13)
- 1.18 クロスはお犬だが、きっと少女は、お犬でも同じ名前にしただろう。
(Shindou, 2003:34)
- 1.19 あなたが大人になったら分かるわ。きっとわかる。(Shindou, 2003:93)
- 1.20 頓狂な声を上げる伊藤光江を、きっと睨みつける静香。(Shindou, 2003:122)
- 1.21 「センスがいいし、きっと、美しい女性なんでしょうね？」(Shindou, 2003:159)
- 1.22 子供みたいに無邪気な女性なんだね、きっと。(Shindou, 2003:171)
- 1.23 獣医師になっていくなっても約束を覚えていたら、私を覚えていたらきっと迎えに来るはず、という不定的な声押し潰されそうになりながらも、私の足は桜木動物院へと向かおうとしていた。(Shindou, 2003:246)
- 1.24 きっと、彼が叔父に相談をしていたんだろけれど私には南さんを責める気も資格もな。(Shindou, 2003:248)
- 1.25 いくら会社の後継者を婿にしたいといっても、きっと、わかってくれるはず。(Shindou, 2003:271)

1.26 きっと素敵なことが待ってるわ。これから始まる新しい生活に、キキはわくわくしているのです。(Miyazaki, 1989:9)

1.27 「きっと。。きっと、その子もおばさんの誕生日をしりたがるわ。プレゼントを考える楽しみができるもの！」(Miyazaki, 1989:93)

1.28 「それ、僕の父さんが飛行船からとったんだ。ラピュタっていう、空に浮いている島なんだ。でも、誰も信じてくれなかった。父さんはうそつきと言われたまま死んじゃった。でも、父さんはうそつきじゃない。きっと僕が、ラピュタを見つけて見せる。」(Miyazaki, 1988:21)

1.29 パズーとシータの乗った凧は、光と雲の渦に、ぐるぐると巻き込まれて、タイガーモスからも霧はなされてしまいました。

「父さんのいった道だ。きっと僕たちもいける！」(Miyazaki, 1988:69)

1.30 この投稿を読んでいる人たちは日本語上級者ですから、きっと「学生」と「生徒」の違いを知っているはずです。それで、ここにその違いの説明は書きませんが、確認したい方はコメント欄で質問してください。

(<http://nihongodaybyday.blogspot.co.id/>)

1.31 想いはきっと届くはず！！(http://taiguruma.blogspot.co.id/2011/06/blog-post_22.html)

2. 必ず

2.1 食事のあと、必ずこの茶を飲んでください。(Oyama, 1993:28)

2.2 父は毎晩必ずワインを飲んでから寝ます。(Oyama, 1993:28)

2.3 できるだけじゃなく、必ず来るように。(Oyama, 1993:28)

2.4 松田さんは毎朝必ず九時前に会社に着く。(Akimoto, 1987:164)

2.5 「もう、大丈夫。さ、おいで。」

「お父さんとお母さんは、どこ？豚になんか、なってないよね。」

「今はむりだが、必ず会えるよ。」 (Miyazaki, 2001:23)

2.6 「駅はいけばわかるって」

「ありがとう」

「必ずもどってこいよ！」 (Miyazaki, 2001:127)

2.7 ホモには必ずきっかけがあるんだろうか。(Kaori, 1991:52)

2.8 春に雪が降ったときに願いことをすれば、必ず叶うって。(Shindou, 2003:18)

2.9 クラスメイトの家に遊びに行くと、必ず上級生に間違えられた。
(Shindou, 2003:20)

2.10 「ありがとうございます。でも、必ず、お金はお返ししますから。」
(Shindou, 2003:23)

2.11 必ず、お座り、伏せなどの号令を出してから、要求にこたえて。
(Shindou, 2003:42)

2.12 子犬の见ている前で一緒に食事をする場合は、必ず飼い主が先に食べる
こと。(Shindou, 2003:42)

2.13 私、この人と一緒になれたなら必ず幸せになれると信じて疑わなかつ
た。(Shindou, 2003:93)

2.14 そして、毎年春には、必ず動物病院で血液検査を行ってください。
(Shindou, 2003:123)

2.15 一種間後に、もう一度検査をしますので、必ずいらしてくださいね。

(Shindou, 2003:124)

2.16 「春に雪が降ったときに願い事をすれば、必ず叶うって。」 (Shindou, 2003:196)

2.17 春に雪が降ったときに願い事をすれば必ず叶う、という言葉。

(Shindou, 2003:253)

2.18 「約束する。今度は必ず、迎えに行くから。。。」 (Shindou, 2003:258)

2.19 昔から満は、アニメやドラマで感動すると、照れ隠しで必ずかるぐちを叩いた。(Shindou, 2003:266)

2.20 「必ず、戻る。がんばれ！」 (Miyazaki, 1997:45)

2.21 どんな手段を使っても、必ず連れ戻してみせる。(Shindou, 2003:293)

2.22 「はい、もしもし。」じゅわきをとったキキの顔が、ぱっと明るくなりました。お届け物のおきやくさんだったのです。「わかりました。青いやねのお宅ですね。必ずお伺いいたします。」 (Miyazaki, 1989:53)

2.23 「キキ、これをコポリという人に届けてほしいの。必ず本人に渡してね。」 (Miyazaki, 1989:66)

2.24 しかし、誰が何を言おうと、自分の人生です。そして心ある人は、必ずあなたを正しい目で見せてくれています。

(http://laikacameback.blogspot.co.id/2011/03/blog-post_4929.html?m=1)

2.25 言われようとも、あなたの愛したその人は、必ず、必ずあなたを見て
くれています。わかってくれています。

(http://laikacameback.blogspot.co.id/2011/03/blog-post_4929.html?m=1)

2.26 私は酒を飲むと必ず頭が痛くなります。(Matsumoto, 1996:111)

3. 絶対 (に)

3.1 弟は絶対そんなこと言わないと思う。(Oyama, 1993:28)

3.2 絶対美味しいから食べてみて。(Oyama, 1993:28)

3.3 絶対遅れないでくれ。(Oyama, 1993:28)

3.4 明日の試合には絶対勝たなければならない。(Akimoto, 1987:164)

3.5 戦争に核兵器を使用することは絶対に許されない。(Akimoto, 1987:165)

3.6 どんな理由があろうと、戦争は絶対反対です。(Akimoto, 1987:165)

3.7 頭をかかえ、しゃがみ込んだ千尋は、自分の手をみて、ぎょっとしま
した。

「ああ、夢だ、絶対ゆめだ！」(Miyazaki, 2001:21)

3.8 カオナシ : 「金をだそうか？千は何がほしいんだ？いってごら
ん。」

千尋 : 「あなたはどこから来たの？来たところへ、帰った
ほうがいうよ。わたしがほしいものは、あなたに
は、絶対だせな
い。」(Miyazaki, 2001:120)

3.9 「絶対、睦月さんと呼ぶわ。」(Kaori, 1991:116)

3.10 「どこにしようと絶対に呼びだす」 (Kaori, 1991:116)

3.11 「それから、患者さんにちょっかい出すもなしです。絶対なしですか
らね。」 (Kaori, 1991:142)

3.12 面倒は絶対にかけないから、お願い。。。 (Shindou, 2003:29)

3.13 だから、クロスと遊んでいつときも、絶対に君が下になるような態勢
はだめだよ。 (Shindou, 2003:40)

3.14 とにかく、わしは絶対に娘を貴様になど渡さん。 (Shindou, 2003:293)

3.15 これは絶対に看過してはいけない人権侵害事件である。
(<http://peacephilosophy.blogspot.co.id/2016/03/a-tokyo-landlord-denies-rental-to.html?m=1>)

3.16 「絶対に助けなければいけないという気持ちでいっぱいだ。」
(<http://www.asahi.com/sp/articles/ASJ554GG2J55TIPE008.html>)

3.17 「パズー、眠れないの。。私、怖いわ。おばあさんに教わったおまじ
ないの言葉で、あんあことがおこるんて。。絶対、使っちゃいけない言葉
もあるの。ほろびの言葉。でも、この言葉は、けっして使うなって。あの
石は、外へ出しちゃいけなかったのよ。」 (Miyazaki, 1988:64)

3.18 愛する人が、その尊い命をかけて教えてくれたこと、その死に、その
愛に、報いるためにも最後まで一緒に思いきり生き抜いていこう。絶対に
大丈夫。

(http://laikacameback.blogspot.co.id/2011/03/blog-post_4929.html?m=1)

3.19 お土産って人それぞれ好みが違うから「私は**絶対**これを買うのよ！」
というのがそれぞれ違ってて面白いんですよ。

(http://hongkongunchiku.blogspot.co.id/2015/06/blog-post_30.html?m=1)

3.20 八戸を観光するなら**絶対**に行ってほしい場所があります。J R八戸線
陸奥湊駅前の魚再小売市場です！

(http://mamo-photo.blogspot.co.id/2014/09/blog-post_65.html?m=1)

3.21 実は今回の一番注目を浴びたのが、一本だけご用意したマデイラワイン。
まず、珍しいです。だから、ワインが好きな方なら**絶対**気になる存在。

(<http://badasaori.blogspot.co.id/?m=1>)

